

MENU

SEARCH

INDEX

JAPANESE

BACK

5 / 5

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 01-233617
(43)Date of publication of application : 19.09.1989

(51)Int.Cl. G06F 3/14
G06F 3/14

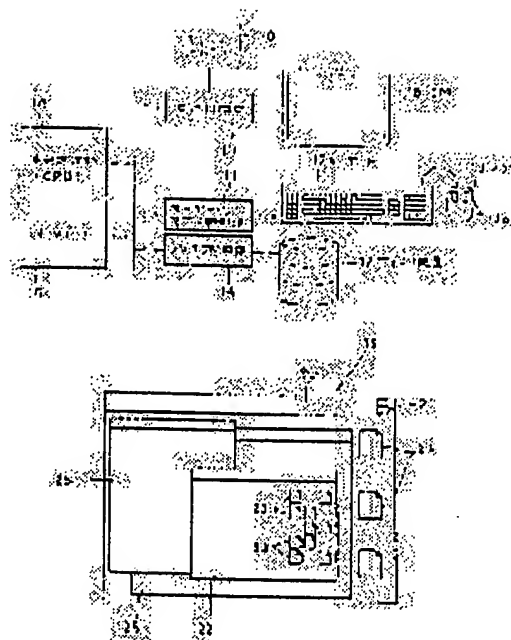
(21)Application number : 63-061172 (71) Applicant : FUJI XEROX CO LTD
(22)Date of filing : 15.03.1988 (72)Inventor : MATSUSHITA MASATOSHI

(54) INFORMATION PROCESSOR

(57)Abstract:

PURPOSE: To execute a function corresponding to data by redisplaying the data representing the respective kind functions displayed at a display means while making the data correspond to the required position of the display means.

CONSTITUTION: The menu selection of a redisplay window 22 of a desk top is executed by a pull down menu 21 of an area for system display 20 displayed on a display scope 19 of a CRT 18. Then, the redisplay window 22 of a required size is displayed on the display screen 19, and the desk top, on which an ICON is arranged, is displayed by a reducing ratio corresponding to the size of the window 22. The arrangement of respective ICONS 23 of the redisplay window 22 is stored as positional information fixed on the scope with a pointer in a main memory 16. Thus, when the required ICON is designated among the ICONS 23 by a mouse 13 and the like the open procedure and the like of a fixed file can be designated, for instance.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-233617

⑬ Int. Cl.⁴

G 06 F 3/14

識別記号

3 5 0
3 7 0

庁内整理番号

A-7341-5B
A-7341-5B

⑭ 公開 平成1年(1989)9月19日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全6頁)

⑮ 発明の名称 情報処理装置

⑯ 特 願 昭63-61172

⑰ 出 願 昭63(1988)3月15日

⑱ 発 明 者 松 下 正 年 埼玉県岩槻市大字岩槻1275番地 富士ゼロックス株式会社
岩槻事業所内

⑲ 出 願 人 富士ゼロックス株式会 東京都港区赤坂3丁目3番5号
社

⑳ 代 理 人 弁理士 木村 高久

明 細 書

1. 発明の名称

情報処理装置

2. 特許請求の範囲

(1) 表示手段に表示された各種機能を表すデータを指定し、該指定したデータに対応した機能を実行する情報処理装置において、

前記表示手段に表示された各種機能を表すデータを当該表示手段の所望の位置に再表示指定する指定手段と、

前記指定手段の指定に対応して前記データを当該表示手段の所望の位置に再表示制御する表示制御手段と、

前記再表示されたデータのうちから所望のデータを指定し、該指定したデータに対応した機能を実行するデータ指定制御手段と

を具えたことを特徴とする情報処理装置。

(2) 前記各種機能を表すデータは、当該各種機

能を表す絵文字のデータから成ることを特徴とする請求項(1)記載の情報処理装置。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、ディスプレイなどの表示手段にデスクトップの画面を表示するための情報を処理する情報処理装置に関する。

〔従来の技術〕

従来、このような装置は、ワードプロセッサやワークステーション等に用いられており、第4図に示すような、ディスプレイ1の画面上2に表示された各種機能や資源(データファイル等)を視覚化した絵文字(以下、アイコンという。)3、3'及びウィンドウ4群のオブジェクト管理を行うものがある。そして、ユーザがキーボード5またはマウス6を使用し、画面上のアイコンに対し所望のアイコンを指定してアイコン操作を行うと、本体7内の制御部は、上記アイコンが指示する機能や資源に対する手続き(例えば、データファイ

ルの開手続き、閉手続き等)を実行していた。

(発明が解決しようとする課題)

ところが、上記装置では、アイコンを配列したデスクトップの表示画面上にウィンドウが開かれると、第4図に示すように、ウィンドウ4によってアイコン3'を覆い隠してしまうことがある。したがって、このような場合には、このままではアイコンの構成又は隠れたアイコン3'に対するアイコン操作を行うことができないので、開いたウィンドウ4を一時閉じたり、移動したりあるいは縮小したりしてアイコン表示画面が見えるような状態にしてからでないと、上記アイコンの構成又は操作ができず、装置の操作上不便をきたし、迅速な情報処理が成し得ないという問題点があった。

本発明は、上記問題点に鑑みなされたもので、アイコン画面上にウィンドウが開かれた状態でも、上記ウィンドウに隠れたアイコンの操作およびアイコン構成をすることができる情報処理装置を提供することを課題とする。

ック図である。図において、キーボード/マウス制御部11は、キーボード12およびキーボード12に接続されたマウス13からの各種データ、指令などを入力制御している。中央処理部(以下、CPU)10は、上記キーボード/マウス制御部11から入力する指令と対応するプログラムによってキーボード/マウス制御部11、ディスク制御部14、表示制御部15などの各種制御部及び主メモリ16を随時的に時分割制御するとともに、所定の演算、処理等を実行する。ディスク装置17は、編集されるデータ(文図)やアイコンに対応したファイル、プログラム及びユーザの単語登録が可能な変換用辞書ファイルなどを格納しており、上記ディスク制御部14はCPU10の指示にもとづき、上記データ等をディスク装置17に読み込み/読み出し制御を実行する。なお、上記変換用辞書ファイルは、複数の論理辞書ファイルが含まれる階層構造になっており、各論理辞書ファイルはユーザ自身が必要に応じて辞書の登録内容を、単語登録などによって変更できるように設定され

(課題を解決するための手段および作用)

本発明では、ディスプレイ等の表示手段に表示された各種機能を表す視覚化した絵文字などのデータを当該ディスプレイの所望の位置に再表示指定するマウス、キーボード等の指定手段と、前記指定手段の指定に対応して前記データを当該表示手段の所望の位置に再表示する表示制御部等の表示制御手段と、前記再表示された絵文字のうちから所望の絵文字を指定し、該指定した絵文字に対応した機能を実行するデータ指定制御手段とを具備しており、マウス等でディスプレイの画面上に表示された絵文字を指定して該指定した絵文字に対応した機能を実行するとともに、再表示した絵文字を指定した際にも、該指定した絵文字に対応した機能を実行するようにする。

(実施例)

本発明の実施例を第1図乃至第3図の図面に基づき詳細に説明する。

第1図は、本発明に係る画像処理装置をワークステーションに用いた場合の概略構成を示すプロ

ている。

主メモリ18は、システムの運用を行うオペレーティングプログラム、キーボード12またはマウス13などから入力する命令群、データ群、CRT18の画像データおよび本発明に係るアイコンに対応したファイルやプログラムを格納する。

表示制御部15は、CRT18を制御し、上記主メモリ18内の画像データに対応した文字ドットや各種機能に応じたウィンドウおよびアイコンのパターンなどを格納しているフレームバッファ30から該当するドットやパターンのデータを读出して上記CRT18に表示させる。

本発明に係るアイコン表示画面の再表示指定は、第2図に示すCRTの表示画面19上に表示されたシステム表示用領域20のプルダウンメニュー21によって、デスクトップの再表示ウィンドウのメニュー選択を行うことにより、所望の大きさの再表示ウィンドウ22を上記表示画面19上に表示させ、アイコンが配列されたデスクトップを上記ウィンドウ22の大きさに対応した縮小比率

で表示する。上記再表示ウィンドウ22に表示された各アイコン23は、ワークステーションの初期動作の際にCRT18の画面19上に表示されるデスクトップ表示ウィンドウのアイコン24と対応しており、上記再表示ウィンドウ22の各アイコン23の配置は、画面上で定められた位置情報としてポインタとともに、主メモリ16に格納されている。したがって、マウス13等によって上記アイコン23のなかから所望のアイコンを指定すると、当該アイコンに対応した機能、例えば所定ファイルの開手続き等を指定することができる。なお、第2図中、25は先に開設されたウィンドウを示している。

次に上記装置においてCRTの画面19上にデスクトップを再表示させる場合の動作を第3図のフローチャートにもとづき説明する。

ここでは説明の都合上、第2図に示した再表示ウィンドウ22以外の他のウィンドウ25がCRTの画面19上に表示されている状態からの動作について説明する。

応じたデスクトップ操作、例えばアイコン24の移動/複写/削除/開始等を実行する(ステップ105)。なお、上記操作において、アイコンの選択は、マウス13を移動させて上記マウス13の移動に連動する図示しないカーソルを該当するアイコン24にあわせて上記マウス13の所定のマウスボタン13aをクリックすることにより可能になる。そして、上記アイコン24の選択後に当該アイコン24の上述した操作指示(移動/複写/削除/開始等)が実行できる。また、ステップ102でアイコン自体への操作の場合にも、上記同様ステップ105の動作を実行する。

ステップ104において、アイコン自体への操作でない場合には、マウス13等の指示によって、第2図に示したシステム表示用領域20のプルダウンメニュー21のメニュー操作が行われたかどうか、判断する(ステップ106)。ここでメニュー操作が行われなかった場合には、動作を終了し、また上記プルダウンメニュー21のメニュー操作が行われた場合には、その操作がデスクト

ップ第3図において、まずCPU10は、キーボード12またはマウス13を使用してユーザからある入力指示があるか、その指示がアイコン24を配列しているデスクトップ表示ウィンドウを含むウィンドウ25自体への操作指示なのかどうか、判断する(ステップ101)。ここで、ウィンドウ自体への操作の場合には、次にデスクトップ表示ウィンドウ内のアイコン24自体への操作かどうか、判断する(ステップ102)。ここでアイコン以外のウィンドウ25への操作の場合には、該当するウィンドウへの拡大/縮小/閉じるなどの操作のなかから該当する操作を表示制御部15に指示して上記操作を実行させる(ステップ103)。

また、ステップ101でユーザからの入力指示がウィンドウ自体への操作指示でない場合には、表示されているアイコン自体への操作(アイコンの構成やアイコン操作等)かどうか、判断する(ステップ104)。ここでアイコン自体への操作の場合には、CPU10は、指示された操作に

アの再表示ウィンドウのメニュー選択によるデスクトップのレイアウト表示の開始かどうか、判断する(ステップ107)。ここで上記メニュー選択がデスクトップのレイアウト表示の開始の指示の場合には、CPU10は、デスクトップ情報、つまりアイコンの位置情報やポインタ等の編集を行う(ステップ108)。さらに、上記レイアウト表示によってCRTの画面19上に表示されるレイアウト画面(再表示ウィンドウ22)は、上記画面19上に全て表示できるならば、表示位置、画面の大きさは任意に設定できるので、ユーザが設定した任意の表示位置および倍率に応じて上記デスクトップを編集し(ステップ109)、CRTの画面上19上に再表示ウィンドウ22を開いてアイコン24に対応したアイコン23を配列したデスクトップのレイアウト画面を表示する(ステップ110)。

また、ステップ107において、上記レイアウト表示指示以外のメニュー選択が行われた場合には、その選択が画面の拡大/移動に相当するもの

かどうか、判断する(ステップ111)。ここで上記選択が画面の拡大/移動に相当するもの場合には、ステップ109に進み、ユーザが設定した任意の倍率に応じて上記画面を編集するとともに、所定の表示位置にレイアウト画面表示を行う(ステップ110)。

また、ステップ111において、メニュー選択が画面の拡大/移動に相当するものでない場合には、その選択がアイコン自体の操作かどうか、判断する(ステップ112)。ここでアイコン自体への操作でない場合には、レイアウト表示を終了する(ステップ113)。

また、アイコン自体への操作の場合には、CPU10は、指示された操作に応じたデスクトップ操作、例えばアイコン24の移動/複写/削除/開始等を実行する(ステップ114)。そして、上記操作が成功したかどうか判断し(ステップ115)、ここで上記操作が失敗した場合には、ステップ113に進みデスクトップ表示ウィンドウのレイアウト表示を終了し、また成功した場合に

は、アイコン24のレイアウト表示を変更して(ステップ116)、ステップ110に進み変更されたレイアウト画面の表示を行う。

したがって、本発明では、再表示ウィンドウのレイアウト画面上にアイコンを記列したデスクトップを表示することができるので、ユーザはウィンドウを開閉して作業中であっても、上記ウィンドウのウィンドウ操作(縮小/移動等)を行うことなく、上記レイアウト画面上のアイコン操作および新規アイコンの構成が可能となり、情報処理装置の操作の簡略化および操作時間の節約を図ることができる。また、上記レイアウト画面上のアイコン操作および新規アイコンの構成を行った場合には、デスクトップ表示ウィンドウのアイコンは、上記操作にともない変更されることはない。また、本発明の情報処理装置は、実施例のごとくワークステーションに用いる場合のみならず、ワードプロセッサに用いることも当然である。

(発明の効果)

以上説明したように、本発明は、表示手段に表示された各種機能を表すデータを当該表示手段の所望の位置に当該データに対応させて再表示することができるので、ユーザは従来の操作と同様の操作によって、上記表示手段の所望の位置に表示されたデータを操作することができ、該データに応じた機能を実行することができる。

22…再表示ウィンドウ、23、24…アイコン、
25…ウィンドウ、30…フレームバッファ。

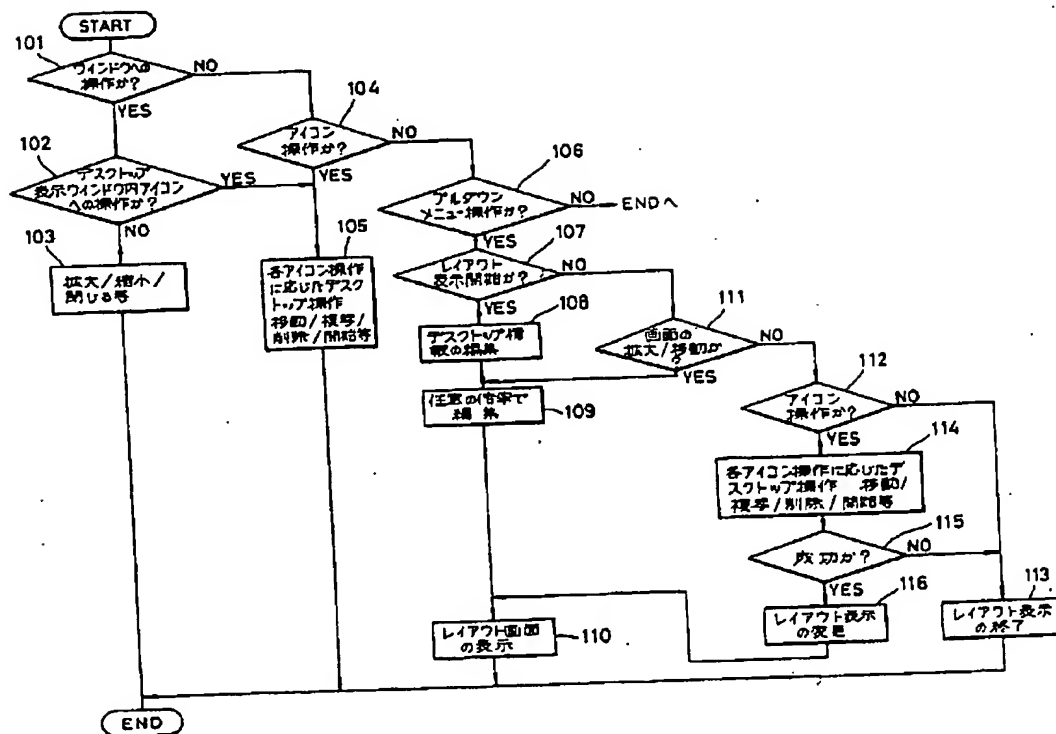
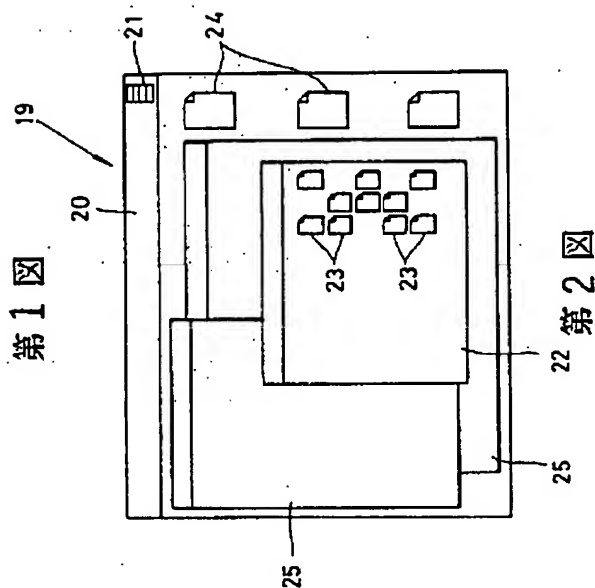
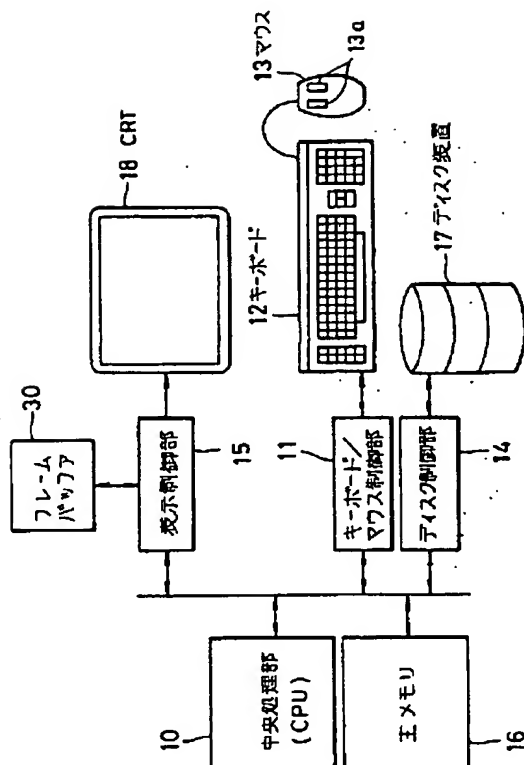
出願人代理人 木村高久



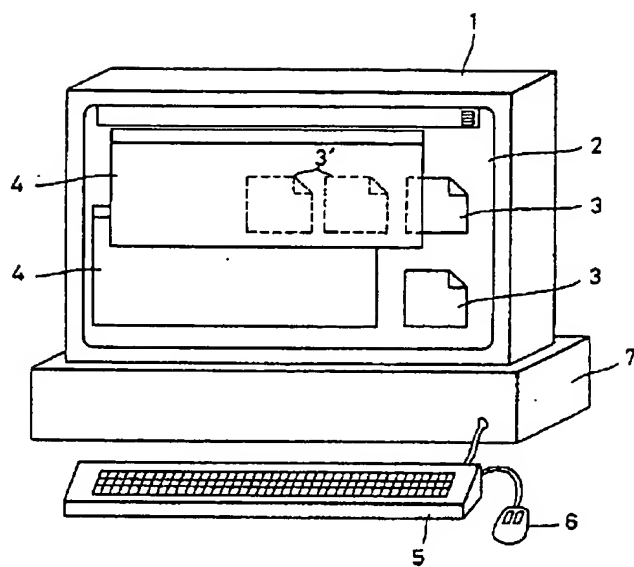
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係る情報処理装置をワークステーションに用いた場合の概略構成を示すブロック図、第2図は本発明に係るCRTの表示画面を示す図、第3図は第1図に示した情報処理装置の動作を示すフローチャート、第4図は従来のワークステーションの構成図である。

10…中央処理部(CPU)、11…キーボード/マウス制御部、12…キーボード、13…マウス、14…ディスク制御部、15…表示制御部、16…主メモリ、17…ディスク装置、18…CRT、19…画面、21…プルダウンメニュー、



第 3 図



第 4 図